

巻頭
言

スーダンの憂鬱

会長 山崎 學



令和5年6月9日に開催された第23回日本精神科病院協会定時社員総会において次期会長にご推挙いただきました。先輩諸先生が築いてこられた協会の伝統を守り、さらに発展させるべく努力する所存であります。

川原尚行医師らが運営している認定NPO法人ロシナンテスの支援を始めてからスーダンの軍事衝突が気になって仕方がない。

スーダンの歴史は大国の思惑に翻弄された歴史である。イスラム教を信仰するアラブ系住民が多い北部（現：スーダン）と、キリスト教や伝統宗教を信仰するアフリカ系住民が多い南部（現：南スーダン）はナイル川北部に位置し、かつてはヌビアと呼ばれ古代エジプト王朝の影響下で金や象牙細工の交易拠点として栄えた。紀元前2000年頃に南部から移動してきた黒人集団がクシュ王国を建国、中王国時代のエジプトの影響下で発展するが新王朝時代にトトメス1世によって滅ぼされる。紀元前900年頃ナパタを都にしてクシュは再興し、衰退したエジプトに攻め入ってエジプト第25王朝を建国するが、やがてアッシリアに敗れヌビアに撤退し、首都もクシュから南のメロエに移しメロエ王国として生き延びた。4世紀に入るとメロエはエチオピア高原のアクスム王国に滅ぼされ、北からノバティア王国、マクリア王国、アルワ王国の三王国に分かれたが5世紀頃にキリスト教を受容し、その後1000年近くキリスト教を信仰する。

しかし1505年にイスラム教のフンジ・スルターン国が建国されるとキリスト教勢力は消滅しイスラム化される。1821年、エジプトのムハンマド・アリー朝が北部スーダンを征服したが、1840年、ロンドン条約によりイギリスの保護国にされる。しかし1883年、ムハンマド・アフマドを指導者とするマフディーの乱によりエジプト・イギリス軍が敗れてマフディー国家が建国される。しかし1898年イギリス・エジプト連合軍がオムダーマンの戦いでマフディー国家を制圧する。しかしマフディー国家を支えて東進政策を援助していたフランスとイギリスの間で軍事衝突が起こりファショダ事件に発展するが、スーダンとモロッコの利権を交換してイギリス・フランス間の紛争は解決する。こうして1899年からイギリス・エジプトの共同統治下に置かれるが、1924年頃に北部を中心とした独立運動が始まり、1954年に北部のイスラム教徒を中心とした自治政府が成立する。しかしイスラム教徒中心の自治政府に対して南部の非アラブ系・アミニズム・キリスト教系が決起し、1955年に第一次内戦が勃発する。

1956年、スーダン共和国として独立するが、1958年イブラヒーム・アブドゥール・ヌール将軍がクーデ

ターを起こしアッブード政権が誕生する。1969年、陸軍のクーデターでヌメイリ政権が誕生し、国名をスーダン民主共和国に改めた。1983年、南部スーダンに反政府組織スーダン人民解放軍（SPLA）がソ連とエチオピアの支援を受けて結成され、1983年から第二次スーダン内戦に発展する。1985年、軍部クーデターでヌメイリ大統領は失脚し、国名もスーダン共和国に戻され、ムハンマド・アフマドのひ孫に当たるサディーク・アルマフディーによる文民政権が誕生する。1989年、オマル・アル・バシル准将が民族イスラム戦線（NIF）と無血クーデターに成功し革命委員会を設けてイスラム化が進んだ。

2011年、南部自治政府による住民投票が行われ、7月9日に南スーダンが独立する。2019年、国防軍がバシル大統領を拘束し、30年にわたるバシル独裁政権は幕を閉じて軍民政権が誕生するが、2022年、アラブ系民兵組織ジャンジャウィードを前身とする準軍事組織RSF（即応支援部隊）と政府軍との間で首都ハルツームを中心とした内戦が開始された。以来、スーダン軍トップのブルハン統治評議会議長とRSFのタガロ司令官は互いに休戦破りを続けており、内乱の治まる兆しが無い。この内戦で国内避難70万人、北隣のエジプトに8万人、西隣のチャドに6万人、南隣のスーダンに5万人と、およそ20万人が難民として出国し、さらにこの数は増加している。

米CNNによるとロシアの民間軍事会社ワグネルがRSF支配地域にある金鉱の利権と引き換えにRSFにミサイルその他の武器を供与していると報じている。また隣国リビアの東部を拠点とする軍事組織「リビア国民軍LNA」が後ろ盾のロシアを介してRSFに武器供与をしている実態も報道されている。スーダン軍が隣国エジプトと親密な関係にあるのに対して、アラブ諸国ではサウジアラビア、アラブ首長国連邦（UAE）、イエメンはRSFと信頼関係を構築し、宗教・政治的色彩を帯びた大国の代理戦争の様相を呈しており、今後も戦争の長期化が予想され、首都ハルツームを中心に病院、医薬品、医療スタッフが大幅に不足し、国際的な人道支援が待たれている。ウクライナ紛争、ウイグルの民族浄化、ミャンマーのロヒンギャ問題などが起きているのに「今だけ」「自分だけ」と平和ボケした日本人が手を差し伸べなければならない問題が山積しているのである。